船橋市障害者自立生活支援事業　　１９９９年10月発行

相談室だより　第７号

船橋障害者自立生活センター　ＷＡＶＥふなばし相談室
〒２７３－００１１　船橋市湊町１－２０－３　ミナトハイツ１０２号
ＴＥＬ：０４７－４９５－６７７７　ＦＡＸ：０４７－４９５－６７７６

コミュニケーション支援
～最近の相談から～

障害者生活支援事業の業務の中に社会資源を活用するための支援として「代筆・代読等コミュニケーションの支援」というのがあります。視覚障害者のために点訳・音訳のボランティアを紹介したり、聴覚障害者のために手話通訳や要約筆記者を紹介したりします。当センターには言語障害のある人や手足の不自由な人が出入りしていますから、代筆や代読、電話番号を代わりに言うことなどは日常茶飯事です。最近はパソコンが普及してきたので「点字よりフロッピーのままでください」という障害者も増えてきました。

アメリカに障害者用の改造車を注文するから英語が出来る人を紹介してほしいという相談もありました。日本語を英語にするのもコミュニケーションの支援です。相談室も、というか障害者も国際的になったものだと思います。

先日は精神障害を併せ持つ方から「親子喧嘩をしたが、親に直接電話すると又喧嘩になるから間に入って伝えてください」と頼まれました。幸いうまくお互いのコミュニケーションが取れて、その時は親子喧嘩も終わりました。精神障害がある時は他人が間に入った方がよい時があるのかもしれません。

最近では某障害者と介助者が盛大な口喧嘩をしてしまいました。その後直接口をきかないで、自分の言い分を伝えてくれというので、「仲直りしたいのなら自分で言わなくちゃ」とお断りしました。と言いつつ（これもコミュニケーションの支援かな）と思って仲裁に入るお人好しの私です。障害者と対等に喧嘩してくれるのはありがたい介助者です。　　（前田）

介助とは何だろう

永山　美子

自立生活センターの介助員になって、2年になります。障害者に関わっているうちに、「介助とは何だろう」と考えてみました。

これから述べることは、私なりの解釈で、一般論ではありません。自立生活センターというくらいですから、障害者の自立を助けることが介助だと思います。以前、ある人に「介助というのは何でもかんでもやってくれることでしょう」と言われたことがあります。それはどうでしょうか。障害者が自分の生活を自分で組み立てていく中で、できない部分を助けるというのが介助だと私は思います。だから言われたことだけをやる、余計なことは手を出さないようにしています。食事を作ることにしても、障害者自身が献立を考え、買い物に行ったり、味付け等も自分で考えて介助者に頼むということもいいのではないでしょうか。

障害者も一人の人間です。急に「今日は天気がいいから出かけたいな」と思うこともあるでしょう。そんな時でも私は出来る限り、応じていきたいと思います。しかしこちらも人間ですから、できないことは「できません」と言ってもいいと思います。

私の理想は、障害者と介助者がお互いの人権を尊重しあいながら対等な立場で付き合っていけるようにしていくことです。

介助はそれほど大変なことではないということを、もっと一般の人々に知ってもらって、もっと介助員を増やしていけたらいいと思います。

私も、自分が元気なうち、自分が介助をしてもらわなければいけなくなるまで、がんばりたいです。

～コラム～

体験ショートステイ

宮尾　修

ノストラダムスの予言の月、あの＜恐怖の大王＞が降りてくるという７月は何事もなく過ぎ、なぁんだと迎えた猛暑の８月。今年は思いがけないことが私を待っていました。

妻が入院することになり、その間ショートスティに行ったのです。場所は市内の特別養護老人ホーム。期間１１日のスティでしたが、小高いところに老人の入所施設、ディサービスの通所施設、それに障害者の療護施設の三つが馬蹄形にならんでいる複合施設で、私の入った老人ホームは一、二階が特養、三階がケアハウスになっていました。

私の居室は一階のいちばん奥で、ベッド、ロッカー、洗面場にテーブルつきの個室という、なかなか快適な住まいでしたが、往生したのはトイレです。いくつかあるのがいずれも狭く、中で車いすが回れない。しかも、造りが全部同じで、便器が隅にあって私には使えないため、療護のトイレまで行ったりしました。

入所者は特養６０人、ケアハウス２５人、うちスティ２０人ということで、対する職員は特養２０人、ケアハウス１人、事務職７人、看護婦２人、外に清掃、厨房、補助職等の職員がいます。現場は６０人を２０人で受け持つのですが、勤務時間の関係で実働しているのは、多いときで８人か９人、夜は宿直を入れて３人になります。これでボケや徘徊や車いすや全介助の何十人もをみている。体位交換などはナースコールで頼むのですが、一時間にこのコールが８０回あったこともあるそうです。

職員は大部分若い女性でしたが、食事、入浴、トイレを含め、男女を問わず、利用者全員の身体介助をやっている。新卒の人が多く、まだ手つきの慣れない人もいましたが、みんな誠実で一生懸命の姿を見ていると、何かしら熱いものが込み上げました。

同時にしかし、超勤、重労働の現実があり、食事と排泄だけの日々がある。「病苦は耐え難し」と自殺した有名人がいますが、そんな自意識など持っていたら一日とていられないのが施設です。人間の業や社会の矛盾、人生の不可思議と変転。一見、この世の離れ島のようですが、何日かそこで過ごしていると、年齢、環境、生い立ちその他、実にいろいろな人のいるのが分かります。

「疲れませんか」と聞くと、「いつも疲れています」と答えた中堅職員。彼女は音大出身で深夜、猛スピードでバイクを飛ばすライダーでした。三十年若ければと思いましたが、もはや詮なし。「つぎのときは、アヴェマリアを歌ってね」といって、美女とさよならしてきました。

人物紹介

今回は、この４月から当自立生活センターの事務局スタッフとして働いて頂いている岩瀬まさ子さんをご紹介したいと思います。結婚退職をされた及川みゆきさんに代わってセンターの会計を引き受けて几帳面にこなして頂いています。もう中間決算を作り上げて下さるしっかり者です。センターのいつも苦しい財政をやりくりするのは大変な作業ですがお陰で滞りなく毎月のお給料が頂けるというものです。センター以外にもお仕事をされているのでほとんどお休みなしのフル稼働で頑張っていらっしゃいます。

お家ではご主人とお子さん２人の４人家族だそうです。時にはお母さんの顔に戻れる時間が作れているのでしょうか？その時々できちんと立場を使いこなしている姿はすてきだと思います。

「秋になったらお庭をお花で一杯にしたいけれど、そんな余裕がないですね」と笑顔でおっしゃっていました。これからもあまり忙しくて体だけは壊さない様にしながら皆のために働いて頂けたら有り難いです。

文責　渡辺

編集後記

本来の相談業務に相談殺到！！ついに相談件数が１ヵ月１００件を越えました。その上猛暑の中のマップ調査に大忙しで頭沸騰状態。その為相談室便りを出すのが遅くなってしまいました。ごめんなさい。厳しかった残暑もようやく過ぎ去ったようだし、落ち着いた実りの時を過ごしたいものです。

渡辺